

Social and Environmental Report

# 社会・環境報告書

# 2017

社会環境報告書  
2017

©セメダイン株式会社



©セメダイン

# 私たちセメダインは、 つける技術で 社会に貢献します。

当社の社名であるセメダインは、おかげさまで今日においても広く皆様に親しまれております。セメダイン (CEMEDINE) とは、接合材であるセメント (CEMENT) と力の単位を表すダイネ (DYNE) との造成語で、「強い接合・接着」という意味が込められています。これが一般的に言われている社名の由来ですが、実はこの他に、もう一つ意味があるとされています。

それは、時をさかのぼること約80年。時代は大正時代。当時、市場で隆盛をきわめていたのはイギリス製の「メンダイン」と呼ばれる接着剤でした。セメダインの創業者である今村善次郎は、「メンダイン」を市場から「攻め (セメ)」出すという意味で、「攻め (セメ) 出せ、メンダイン」と、海外製品に打ち勝とうとの闘志を込めて、開発した製品に「セメダイン」という名前をつけました。

当時はまだ「接着剤」という言葉はありませんでした。家庭では「のり」、産業界では「接合材または、こう着材」というふうに使われていました。実は、この「接着剤」という言葉も、今村善次郎が創った言葉なのです。

## Index

- 01 イントロダクション ..... 01
- セメダイングループの概要 ..... 03
- 私たちの暮らしに身近なセメダイン製品 ..... 05

- 07 トップメッセージ ..... 07
- セメダインらしさにこだわり、  
“つける”技術で  
顧客に貢献していきます。

- 11 特集1 世界をつなぐ、セメダインの  
「研究開発」 ..... 11

- 特集2 愛されて40年、台湾で  
根付くセメダイン ..... 15

- 19 セメダイングループのCSR ..... 19
- お客様を大切にす ..... 21
- 環境を大切にす ..... 22
- 人を大切にす ..... 32
- 社会から必要とされる企業であり続ける ..... 33
- 企業価値の継続的向上に取り組む ..... 35

本報告書の担当責任部署：  
セメダイン(株) 環境安全衛生部  
連絡先：〒306-0204  
茨城県古河市下大野2184  
TEL：0280-92-4518 FAX：0280-92-1947

報告の対象となる組織：本報告の対象組織は、茨城事業所（茨城工場、開発センター）、三重事業所、本社事業所となります。その他の事業所に関連する場合、注記することとしています。  
報告対象期間：本報告書の記載内容は、特に注記のない限り、2016年4月から2017年3月までを報告対象期間としています。  
編集の基本方針：環境省「環境報告ガイドライン」(2012年度版)を参考とし、ガイドライン項目に準拠して記載しています。

# セメディンググループの概要

## 会社概要

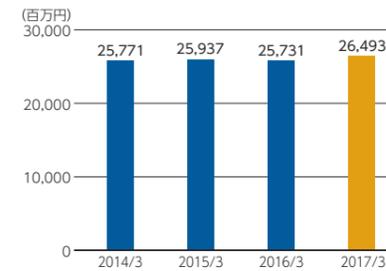
(2017年3月31日現在)

会社名	セメディング株式会社
本社所在地	〒141-8620 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー
事業内容	接着剤・シーリング材・粘着剤・特殊塗料・コーティング剤およびその加工品の製造販売 接着および防水などに関する施工および請負
設立	昭和23年4月22日(創業:大正12年11月)
代表取締役社長	岡部 貴
資本金	30億5,037万5千円(東京証券取引所市場2部上場)
従業員数	281名

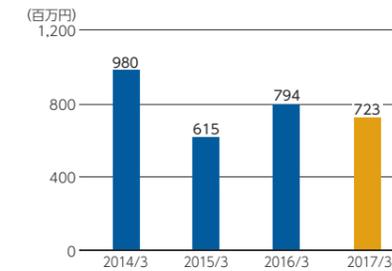


## 連結業績ハイライト

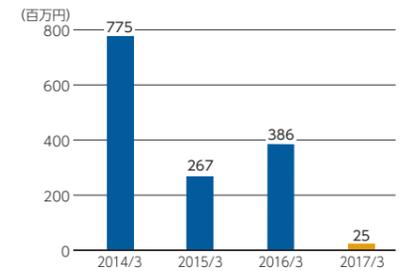
### ●売上高



### ●営業利益



### ●親会社株主に帰属する当期純利益



## 本社・事業所

- 本社・東京事業所**  
〒141-8620 東京都品川区大崎1-11-2  
ゲートシティ大崎 イーストタワー
- 開発センター**  
〒306-0221 茨城県古河市駒羽根94-2
- 茨城工場**  
〒306-0204 茨城県古河市下大野2184
- 三重工場**  
〒519-1106 三重県亀山市関町会下142-7
- 大阪事業所**  
〒542-0081 大阪市中央区南船場1-16-10  
大阪岡本ビル8階
- 名古屋事業所**  
〒464-0026 愛知県名古屋市中千種区井上町34
- 札幌営業所**  
〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9-3  
キタコーセンタービルディング8階
- 仙台営業所**  
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町8-1  
齋喜センタービル2階
- 福岡営業所**  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-17-19  
安田第5ビル9階

## 海外の主な関係会社

### Asia

#### タイ

- CEMEDINE (THAILAND) CO., LTD.**  
1717/1 Onnut Road, Suanluang,  
Bangkok 10250 Thailand
- ASIA CEMEDINE CO., LTD.**  
1717/1 Onnut Road, Suanluang,  
Bangkok 10250 Thailand

#### 中国

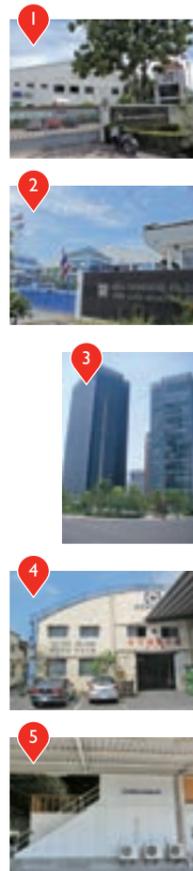
- 思美定(上海)貿易有限公司 /  
CEMEDINE SHANGHAI CO., LTD.**  
200333 中国上海市普陀区岚皋路  
555号品尊国际中心A座902室

#### 台湾

- 台湾施敏打硬股份有限公司**  
台湾新北市淡水區下圭柔山76-3號

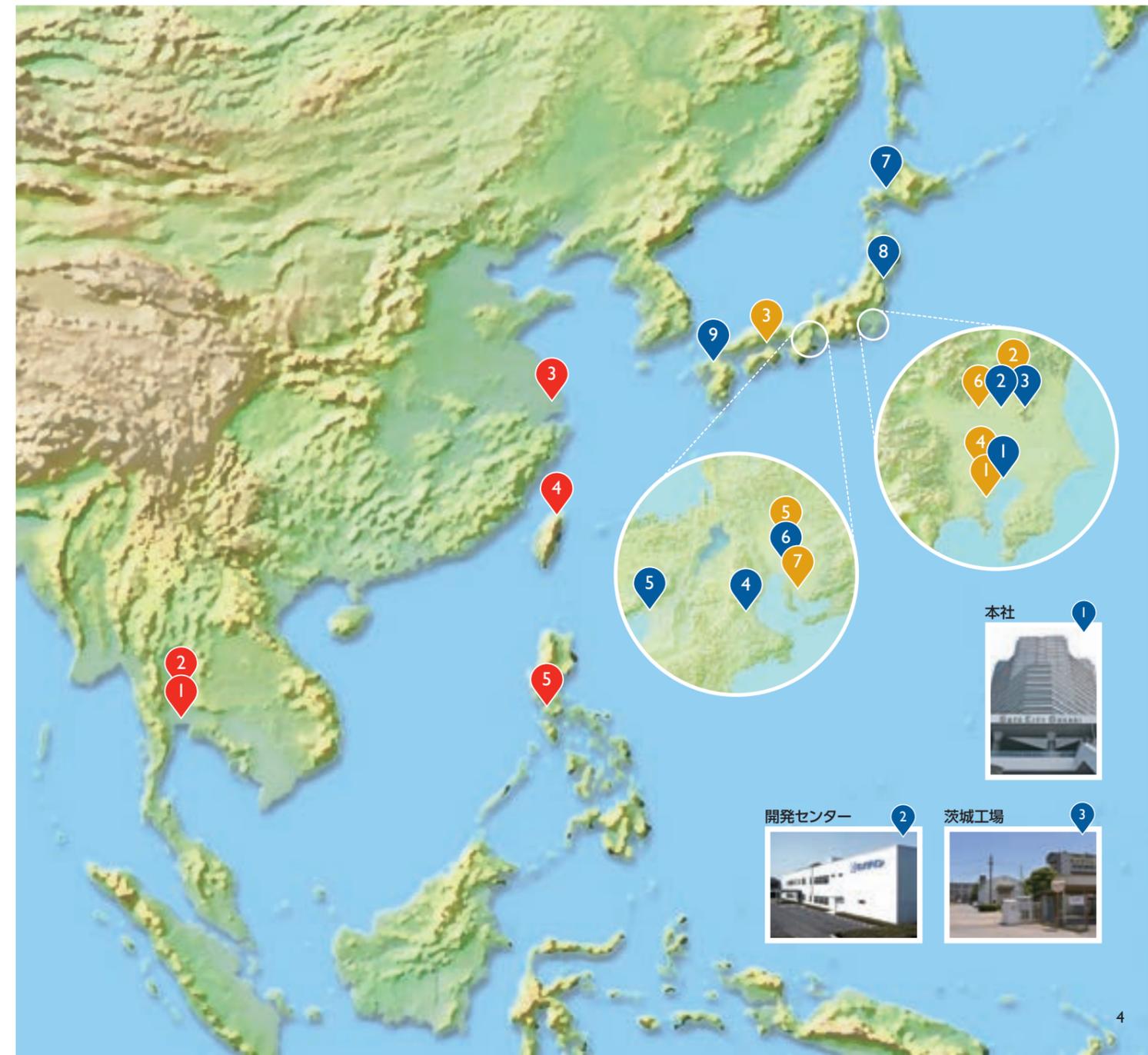
#### フィリピン

- CEMEDINE PHILIPPINES CORP.**  
Block2, Cavite Economic Zone II,  
General Trias, Cavite, Philippines 4107



## 国内の主な関係会社

- セメディング販売株式会社**  
〒222-0033 横浜市港北区新横浜3丁目18-9  
新横浜ICビル2F
- セメディング化工株式会社**  
〒306-0204 茨城県古河市下大野2184  
セメディング茨城工場内
- セメディングケミカル株式会社**  
〒716-1554 岡山県加賀郡吉備中央町西152-7
- セメディングオートモーティブ株式会社**  
※当社は、2017年10月1日付でセメディングオートモーティブ株式会社に吸収合併いたしました。
- 本社・東京営業所**  
〒141-8620 東京都品川区大崎1-11-2  
ゲートシティ大崎 イーストタワー
- 技術開発部**  
〒306-0221 茨城県古河市駒羽根94-2
- 衣浦工場**  
〒447-0854 愛知県碧南市須磨町1-11
- 名古屋営業所**  
〒464-0026 名古屋市中千種区井上町34





# セメダイン製品

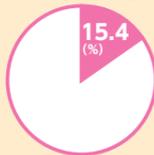
私たちの暮らしに身近な

## 一般消費者市場

一般消費者市場売上高(百万円)



売上高構成比



### イチオシ



#### シューズドクター 瞬間接着剤 スリムP3g

靴底はがれを1分で応急補修  
ビジネスシューズ・スニーカー・ブーツなど

急に靴底はがれて困ったことはありませんか? そんな時は新商品「シューズドクター瞬間接着剤」なら約1分で靴底はがれを緊急補修できます。24時間経過後には雨濡れにもはがれにくくなり、硬化初期と比較して最大約10倍の接着強度に達します。



販売促進課  
高森 貴章



#### シューズドクターN

磨り減ったフツの力カトを簡単に肉盛り補修(無溶剤)



#### スーパーX ハイパーワイド

屋内外での接着補修や趣味・手芸・日曜大工等の接着用(無溶剤)



#### 防水スプレー 除菌・消臭

繊維製品の防撥水・除菌・消臭・防汚加工



#### ラピー

工作・装飾用・贈り物の包装などに

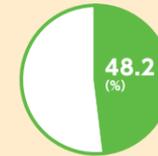


## 建築・土木市場

建築・土木市場売上高(百万円)



売上高構成比



### イチオシ



#### タイルアジャスト

外装タイル張り用  
有機系下地調整塗材

外壁タイルをタイルエースPro(有機系弾性接着剤)を用いて施工する際に使用する弾性下地調整塗材です。コンクリート・モルタル・押出成型セメント板下地に塗布することでドライアウト・凍害の心配も無く、下地変形などの応力を緩和するので地震時の安全性が向上します。一度に10mmまでの塗布が可能です。



販売促進課  
橋野 幸夫



#### PM525

発泡ポリスチレンボードとコンクリート・モルタルの接着(新S1工法用)



#### かため太郎スプレー

モルタル、コンクリート脆弱面の暫定補強用



#### SG-1・L

プラ木レン、巾木、胴縁等内装造作用

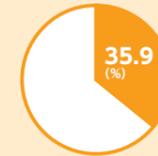


## 工業市場

工業市場売上高(百万円)



売上高構成比



### イチオシ



#### SX-BBX100シリーズ (リペアラブルシール材)

スマートフォン、各種電機部品筐体のシール・組立て

液状のため、薄型・段差追従性・設計変更に対応できます。塗布直後に貼り合わせ可能です。硬化後にノリ残りせず手で剥がせます。基材へのぬれ性が良く、高い防水性を発現します。



販売促進課  
畑中 政幸



#### Y600シリーズ

(低臭気二液形アクリル接着剤)

金属・板金の接着、ゴルフヘッドとシャフトの接着



#### SX1000シリーズ

(放熱性弾性接着剤)

CPUなどの放熱接着、ヒートシンクの放熱接着



#### SX-UV400

(UV硬化形弾性接着剤)

モバイル機器のカメラFPCなど、部材への追従性が求められる電子部品の部材補強



人を大切にし、より良い製品を  
より多くの人々に提供することにより  
社会に貢献する



代表取締役社長

**岡部 貫**

Top Message

**セメダインらしさにこだわり、  
“つける”技術で  
顧客に貢献していきます。**

1. 岡部社長について

子供の頃の夢

中学からバンド活動を始めギターを弾いていました。高校生頃まではプロのミュージシャンになりたいと何となく思っていたのですが、大学に入り世の中の事情が少しわかってくると、「星の数ほど上手いギタリストはいて、その中でもまともに食べていけているのはほんの一握りである。音楽業界も企業が支配している。」などと考えるようになり、サラリーマンになることとしました。

これまでやってきたこと

前職はセメダインの親会社である株式会社カネカで執行役員高機能性樹脂事業部長を務めておりました。セメダインとは、弾性接着剤や多機能接着剤、タイル用接着剤、弾性シーリング材などの原材料メーカーとして共同開発に取り組んできた経歴があります。

2. セメダインをどんな会社にするか

変えていきたいこと

変わらずに守りたいこと

接着剤のパイオニアメーカーとして社会発展に寄与する製品を供給し続けることが、セメダインのDNAと考えています。接着のことならセメダインに相談すれば何とかしてくれるとお客様に思われ、信頼して頂けるように努めてまいります。そのためにも、社員

全員がセメダインブランドにプライドを持ち、接着のプロフェッショナルとなることを求めます。

ただ、接着剤のパイオニアメーカーとして一芸に秀でているだけでは不十分であり、企業としてはある程度規模をもった成長を遂げなければ、再投資も出来ません。カネカと原料面からのコラボレーションをすることはも

もちろん、色々な資産をお持ちの他社とも共創し合うことでオープンイノベーションを進め、スピード感をもった事業拡大を果たしていく所存です。

### 中・長期の取り組み

#### ●ソリューション提案型のビジネス

接着剤の製造・供給に留まらず接着の仕組みを深耕して、ソリューション提案を強化してまいります。

#### ●海外事業展開

現在展開している米国、中国、台湾、タイ、フィリピンでのビジネス基盤を強化し、カネカの人材、海外拠点を活用しながらさらなる拡大を図ります。

#### ●製品開発力の強化

営業部門と技術開発部門の連携による顧客目線の製品開発を念頭に置き、カネカと原料面から連携することで、ユニーク且つ顧客価値のある製品開発を強化してまいります。

## 3. 持続可能な社会の実現に向けて

### 環境

より安全で環境に優しい接着剤の提供や、接着剤を使用することによる建築物、車両、工業製品などの高性能化、ロングライフ化の

実現、リフォームしやすい接着剤の提供など、さまざまな場面で、接着剤を通じた「持続可能な社会の実現」への貢献を目指します。

### 顧客

顧客ニーズに合ったより良い品質を目指してさらなる品質保証体制の強化に取り組んでいきます。また、顧客の潜在的なニーズに合致するソリューションを提案できるようにマーケティング力を強化していきます。

### 企業価値

信頼される企業を目指して海外グループ会社を含めたセメダイングループのコーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでいきます。安全・環境・品質における共同での改善活動推進や、セメダイングループ各社間での情報共有化による相互のレベルアップへの取り組みなどを進めていきます。

### 人材

中・長期の取り組みを実現するためには人材の育成が欠かせません。各部門における必要な能力育成のために、ひとりひとりの個性や特性を考慮し、長期的視点に立った計画的な人材育成を行ないます。

### 地域

子供たちへの接着剤の使い方の講習会、小・中学生の職場体験、高校生や高専生、大学生のインターンシップなどを通じて、次代を担う人材に接着剤の役割や楽しさを伝えていきます。

## 4. 創業100周年に向けた取り組み

2023年の創業100周年に向けて、当社グループの全従業員に「セメダインであることの誇り(プライド)」を喚起し、心構えや企業風土からの変革を願い、その意気込みを「セメダインプライド2023」と名付けています。「セメダインらしさにこだわり、“つける”技術で顧客に貢献する」ことを全社ビジョンとし、接着・シール分野での存在感を高めることを

目標としています。「強い接着から、剥がれない接着へ」というコンセプトを生み出し、弾性接着技術を開発・商品化した柔軟な発想と接着技術で、近年、実現の期待されている「つけたい時について、剥がしたい時に剥がせる究極の接着剤」をはじめ、異素材接合や軽量化など、尽きることのないモノづくりの課題に、挑戦し続けます。



# 「研究開発」 セメダインの 世界をつなぐ、

## ソリューション プロバイダーとしての 研究開発

**橋向** 長期経営計画「セメダインプライド2023」で掲げられた売上目標を達成するためには、お客様が抱える課題やニーズに適切に対応した機能を有する接着剤やシーリング材をスピーディーに市場に投入することが重要です。開発部は、これまでお客様に愛されてきた既存製品のブラッシュアップはもちろん、新製品上市に向けた研究開発を進め、売上の純増を図ることがミッションです。

**倉内** そうですね。研究開発は、常にお客様が要求するニーズを先回りして応えていかなくてはなりませんね。私が担当している建築土木分野では、人口減少に伴って国内の新規着工件数はやや減少してきている中で、建物

の長寿命化という新たな課題が出てきました。このような市場の変化に対応した製品開発を加速させています。

**齋藤** 私が担当しているシーリング材では高性能、高機能の製品が求められる中で、工程改善につながる硬化性などがテーマとなっています。特に住設資材向けの接着剤では、既存製品を使用する工程を短縮するために、塗布方法などの使い方も含めた開発を進めています。

**佐伯** 私が担当する知財管理では、これまでは組成物、接着剤としての特許が中心でしたが、今では塗布方法などの使い方も含めた包括的な出願が増えてきましたね。

**岡本** 私は、建築関連の営業を担当しています。屋内外の現場で接着剤・シーリング材を使用するケースが多い

のですが最近では環境負荷が低い製品や廃棄ゴミの削減が強く求められてきています。さらに作業性なども製品作りに重要なファクターとなっており、開発に求める諸要求が多くなっていますが、しっかりと対応してもらっているで大変助かっています。

**加納** 私が担当する電機・電子製品分野では、スマートフォンや薄型テレビなど、新たなコンセプトの新製品が次々と市場に投入され、その中でセメダインの接着剤が採用されています。各々で要求性能が多岐にわたりますし、どのような接着剤で新製品開発をお手伝いができるか、奮闘の毎日です。

## 海外生産や 海外市場を見据えて

**橋向** 電機・電子製品もそうなのですが、自動車を始め日本の多くの製造業

が海外生産にシフトしていますので、当社の研究開発も、基本的には現地生産化を目指しています。でも日本で設計される場合は、それと同じものが海外の生産拠点で製造出来るのか確認する必要があります生産技術部との連携が不可欠です。

**加納** 接着剤を海外で生産する時に問題となるのは環境と設備、そしてローカルスタッフへの教育です。日本と異なる温度や湿度に気を配り、設備の違いに合わせて、現地で入手できる材料でモノづくりをしなくてはなりません。完成した接着剤の使い方を実際に使用されるお客様のローカルスタッフに理解していただくことも重要です。一例としては、均一な塗布を実現するために、塗布機を協力会社と一緒に開発してマニュアルとともに納入したこともありまし



事業本部 建築第部  
販売第五課長  
岡本 洋明

事業本部 営業管理部  
販売促進課  
畑中 政幸

技術本部 開発部  
知財グループ課長  
佐伯 友見

技術本部 開発部  
研究第五・六グループ課長  
橋向 秀治

技術本部 開発部  
研究第四グループ課長  
倉内 晴久

技術本部 開発部  
研究第三グループ課長  
齋藤 知紀

技術本部 開発部  
研究第三グループ課長  
加納 伸悟

## 人・物・企業・情報の インターフェイスをつなぐ研究開発

セメダイングループは、長期経営計画「セメダインプライド2023」を策定しました。創業以来、日本の接着剤のバイオニアとして、手芸、模型など身近な接着用途から自動車、鉄道車両、エレクトロニクス、建築土木分野など、あらゆる産業につける技術を提供してきました。創業100周年を迎える2023年に向け、セメダイインらしさにこだわり続け、進化したつづける技術で新たな顧客価値を創造し、人・物・企業・情報のインターフェイスをつなぐ研究開発を進めていきます。そこで、各分野を代表する役員が集まり、研究開発に関わる座談会を開催しました。

**畑中** お客様とのコミュニケーションの機会が多い販売促進課にいますと、海外で当社製品の信頼性は非常に高いと実感できます。あまり価格ありきの話は出てこないです。だから最先端の技術を用いて各国の規制に十分配慮した製品を開発して欲しいと思っています。特に各国の環境への対応、化学物質規制等への対応には細心の注意を払ってほしいです。

**佐伯** 海外では、当社の製品を使われるお客様の製品が、どの国で使われるのかということが知財戦略上重要なのです。今では中国やタイなどアジア各国で日系企業の製品が製造されていますが、その中でも知的財産の意識が高い国、地域に絞って特許を出願をするようにしています。

**倉内** 建築土木分野は国内が中心なのですが、タイル張り用の接着剤は需要の拡大が期待されます。今までモルタル張りが中心でしたが、下地調整も含め接着剤に置き換える動きが、国内建設会社各社で加速しています。今後は海外にも技術移転できるのではないかと思います。熟練工でな



くても安定した施工品質が得られ、環境面にも配慮していますので、期待できると思いますね。

**齋藤** シーリング材においても、建物自体の長寿命化に伴って、外観を美しく保つ耐久性を向上した製品の開発を進めました。外壁自体も防汚性を向上させたものが多数登場してきていますので、建物の改修回数を減らして、コストの低減にもつながると評価されています。このように国内市場での研究開発が、やがて海外でも評価されて広がっていくといいですね。

**岡本** タイル張り用の接着剤とシーリング材の組み合わせによる建物の長寿命化や改修サイクルを伸ばす取り組みは、大手デベロッパーと協力して進めています。また、当社の接着剤とシーリング材は、東京オリンピックの舞台となる新国立競技場でも採用されています。美しく、しかも低コストで環境負荷の低減につながる建築物を、多くの海外の方にご覧いただき、当社製品の技術力の高さを国内のみならず世界へ広めていきましょう。

### 社会のシーズに立脚した研究開発活動

**佐伯** セメダインでは、建築基準法が改正になった2005年に開発センターを設立しました。そして開発センター内に、建築基準法に関するホルムアルデヒドや4VOC（トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの4物質）を検査ができる環境を整備しました。また、グリーン調達や環境負荷の低減にもつながる、日本接着剤工業会が設定したホルムアルデヒドや4VOCの基準に見合う接着剤の研究開発も行っています。

**橋向** 自動車分野では、軽量化を目的として複数の素材を使うマルチマテリアル化が進んでいます。そこでNEDO（国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）の

研究プロジェクトに2017年度から当社も参画しています。新規材料、異種材料の接合は、溶接を中心に研究していましたが、当社と産業総合技術研究所がISMA（新構造材料技術研究組合）の受託先として接着剤による接合を研究する予算をいただきました。

**岡本** この溶接に代わる異種材料の接着技術は、建築分野でも非常に有望だと思います。建設現場でも溶接は多く使われていますが、安全性や溶接工自体の人手不足という問題がありますので、実は溶接を接着剤に代替できるようになると、安全性はもちろん、人手不足の解消や工期短縮などの社会課題の解決につながりますね。非常に有望な研究開発活動だと思います。

**齋藤** 建築分野のシーリング材では、昔からユーザー様と共同で開発することが多いです。スペックなど細かく定めた、そのユーザー様専用の製品を作り上げるという研究開発です。当社オリジナルの技術を取り入れた新しい製品の研究開発では、親会社であるカネカと共同で研究開発をすることもありました。

### 未来社会を拓くセメダイングループ

**加納** 世の中に出てくる新製品の意匠や新技術を支える耐久性には、必ずと言っていいほど接着剤が使われています。最近のスマートフォンの耐水・防水の性能を高めてきたのも、シーリング材という接着剤で内部に水が入り込まないようにできたからです。電気を通す導電接着剤や、UV（紫外線）で硬化する接着剤などは、未来社会を拓く製品やサービスには欠かせない存在ですね。

**倉内** 日本の建築現場でも、多くの接着剤が使われています。その中には、新たな工法として確立していったものもあります。日本の高い建築技術の中

で、実は大きな位置づけを占めていますが、残念なことに社会的な認知はまだ低いのが現状です。

**橋向** 現状の構造設計では、接着剤は計算されない存在なのです。ただ現実的には接着剤を使用することによって、剛性が上がっているという事実もあります。自動車を筆頭として工業製品のマルチマテリアル化が進んで、接着剤による接合技術の有効性が認められるようになれば、接着剤の使用範囲も広がっていくでしょう。

**岡本** セメダインは、私が入社した頃から、「技術のセメダイン」と社外から評価されてきました。長期経営計画「セメダインプライド2023」の中で、セメダインらしさにこだわり続け、進化した“つける”技術で新たな顧客価値を創造するという事は、私は、「技術のセメダイン」という名に恥じないように日本国内や世界を牽引するような接着技術をこれからも研究開発し、社会に広く提供していくことだと信じています。本日はありがとうございました。



**齋藤** 私は新たな材料として、様々な機能性をもつナノ材料などにも注目しています。後は自然界に存在する植物由来の成分を用いたものも、過去から大分あるのですが、高機能化されている材料もでてきていますので、環境負荷の低減という意味で製品化に向けて研究してみたいと思います。

**佐伯** セメダインという会社は、諸先輩方が90年以上守ってきたスピリットと、積み上げた知識、ノウハウが蓄積された会社です。そのプライドを守るために、知的財産の分野からも頑張っていく予定です。

**一同** ありがとうございました。



# 愛されて40年、 台湾で根付くセメダイン

## 台湾セメダインについて

台湾セメダインは、台湾の功学社を総代理店として私が日本のセメダイン製品を販売する貿易会社泰新興を設立ところから始まります。その後1977年にセメダインとの合弁会社として台湾セメダインが設立されました。

グローバル化の潮流の中で企業に必要なローカル化と現地生産品を調達するために、当時原社長と私が、ともに絶対に失敗が許されないなかで努力し、念願である台湾での合弁会社設立の許可を得ました。

現地の生産から40年が経過し、日本より派遣された多くの技術者の指導と、台湾の技術研修者への指導を行うことで、作業員とともに台湾セメダインの将来的な成長のために毎日努力して高品質な製品を製造しています。

販売実績が高いスピーカー用接着

剤のメーカーとして、台湾での接着剤業界に一石を投じるだけでなく、さらに中国大陸に接着剤輸出量を年々上昇させ、ブランド力や販売量を引き続き伸ばすことができると確信しています。



總經理  
吳泰山

### 台灣施敏打硬股份有限公司 会社概要

会社名	台灣施敏打硬股份有限公司
設立	1977年
所在地	本社(淡水工場) 新北市淡水區下圭柔山76-3號
	支社 高雄市熱河二街14號
事業内容(製品)	接着剤の製造販売
従業員数	男性25名 女性10名 合計35名
主要取引先	エレベーターメーカー 崇友(東芝系) 富士達(フジテック系) 電源メーカー DELTA(台達) など

## 台湾セメダインの歩み

台湾セメダインは、創立されてから40年に近い歴史を歩んできました。

最初は、ゴム系の接着剤を少量生産することから始まりました。

そしてゴム系の次は日本セメダインの協力で、現在当社の主力品種であるアクリル系接着剤(Yシリーズ)の生産に取り組みました。

どちらも日本では問題なく生産、販売されていた製品ですが、台湾セメダインで生産しようとするとは簡単にはいかず、苦勞の連続でした。

ゴム系の接着剤は使用した多種類のゴムが時間の経過と共に分離し、混ぜた溶剤も接着剤の表面に浮かび上がってしまうという問題が発生しました。



淡水工廠廠長  
吳誠勇

日本セメダインの技術者たちと色々と相談したのですが、日本では通常、使用時によく攪拌するので問題なかったのですが、商習慣や価値観の違いで台湾ではそうはいかずに、お客様からの返品を受けるしか術はありませんでした。

そして、貯蔵安定性が悪いために硬化を生じるという問題は、新たに生産を開始したアクリル系接着剤でも発生してしまったのです。

お客様は一度痛い目に遭うと、二度とその製品に手をつけようとせず、新規開拓もままならない状況になりました。

当社ではこの状況を打開するために、台湾の風土や台湾のお客様に合った製品にするために台湾セメダイン独自で組成の変更や製造工程を再検討することにしました。そして試行錯誤を繰り返した末、一年経っても分離しないゴム系、貯蔵安定性に優れ、一年経過しても液体のままの状態を保つアクリル系接着剤が完成しました。

そしてそれらの製品は、各国のお客様よりご好評を頂くことになりました。

これらの台湾の原材料を使用した接着剤は日本からの原材料を使うことに比べ、営業的にも成功をおさめました。

そしてここまで台湾セメダインが発

## 持続的成長に向けての取り組み

台湾でセメダインの製品を輸入販売を開始したのは1971年とのこと。当時は台北市内に事務所を構えていたようですが、そこを起点にすると台湾進出は実に46年になります。

1977年の淡水工場の稼動を契機に、台湾セメダインは台湾国内で接着剤メーカーとして販売展開を継続してきましたが、台湾は日本同様に国内メーカーの工場はほとんど海外、特に中国大陸にその主力を移しています。したがって、台湾セメダインの主要顧客も海外にあ

り、韓国、インドネシア、ベトナムなどへの輸出は50%を超えています。

今後、ますます国外への比重が大きくなっていくでしょう。一方で、規制が年々強化されている海外の化学品法規制に対しては、ますます迅速な対応が必要になります。台湾セメダインの限られた体力ではその対応の大部分を日本に期待せざるを得ません。日本との連携による海外の化学品情報の整備がますます重要な課題となっていきます。



展し、ものが売れるようになったのは、やはり日本セメダインのオリジナル技術があったからこそなのです。

台湾セメダインは今後も常に初心を忘れず、地球環境にやさしい無溶剤形の接着剤についても計画通りの生産を実現できるよう、モノづくりのプロとして努力を続けてゆきます。



董事長  
岸本正昭

## グローバル調達体制における「台湾」

先にお話したとおり、台湾セメダイン製品の50%以上は海外に輸出されます。台湾国内にあった顧客工場が、中国大陸を中心に、アセアン諸国に広がったことがその理由です。また生産の稼働率は順調に推移しており、長期在庫を抱えるケースはほとんどあり

ません。したがって、出荷予定を見据えた生産計画の策定が非常に重要になります。そのため、情報の共有化と見える化により、スムーズな輸出ができるように取り組んでいます。

台湾セメダインは、セメダイングループ会社の中で唯一アクリル系接着剤

(SGA)を生産していますが、年々着実に生産量が増えてきており、当社の主力製品となりつつあります。手狭な工場敷地で、いかにSGAの生産量を増やしていくかが直近の課題です。



## 営業

### 営業員にチャレンジ精神を

台湾セメダインの営業目標は製品をどのように販売するか、会社がどのように利益を保ちながら成長していくかということです。この目標のもと、営業員ひとりひとりがチャレンジ精神を持ちながら持続的に能力を向上させ、達成感を感じることができる、そのような会社にしていくことで営業スタッフ全体の会社に対する信頼や忠誠心が高まっていくと考えております。

台湾セメダインでは高品質製品の安定した生産と日本セメダインによる新製品の開発の援助、また営業スタッフが十分な知識を持って

お客様に対応することで、お客様に接着剤と言えば台湾セメダインと言っていただけだと考えて、これらの課題に日々取り組んでいます。



業務経理・高雄支店経理  
呉 誠忠

## 製造

### 生産性の向上への取り組み

7年間にわたり、営業員として台湾南エリアの新規顧客開拓などを行って来ましたが、今は品質、生産管理の仕事に取り組んでおります。

品質向上、生産性改善の取り組みの中で、自分が見つけ出した答えは、より品質の高いモノづくりに加え、安全衛生、職場環境など、すべてにおいて国際水準を満たすことにより、生産性が向上し、生産量が増えるということでした。

そのためにまず、品質、生産管理に必要な知識を習得することを目指し、専門技能講習や資格取得試験にも挑戦し、結果として5個の資格を取得することに成功しました。



品質兼 廠務 経理  
洪 誠嚴

## 品質保証

### 優良な製品を誇りに感じています

台湾セメダインは40年に及ぶ生産実績があり、当社で作られる製品は優良であると、誇りに感じております。高い品質の原料を選んで、それぞれの工程の検査を大切に、生産関係の書類を重要な記録として保管しております。ロットナンバー毎に安定性を確認しており、接着性についても基準値を満たすことを保証しています。

時代の変化に伴い各国の化学物質規制に応じて、原材料の調査と管理はセメダイングループがもつ資源のおかげでユーザーからの関係法規化学の調査依頼に迅速に対応することができています。



開発 兼 品質保証 経理  
洪 俊賢

## 物流

### 物流をもっと円滑に進めるために

アジア圏の中で、最近20数年で台湾セメダインからの輸出が拡大し毎月実績が出ているのは中国と韓国ですが、他の国でも既存の顧客の海外進出により少しずつ輸出実績が出てきています。

現在、各国の化学物質規制に対応するために、日本セメダインの品質保証本部の協力を



庶務 兼 貿易 主任  
呉 阿雪

得て各国の法令に対応した関係書類を収集しており、今後、当社における物流がより円滑に進むように推進していきたいと考えております。



## 〈私が大事にしていること〉

私は仕事の信頼性を上げることを考えて努力しています。



業務  
呉 品嫻

安全と品質は会社にとって最も重要な事項であり、台湾セメダインの全員が努力して取り組む必要があります。



庶務 兼 経理  
呉 燕雪

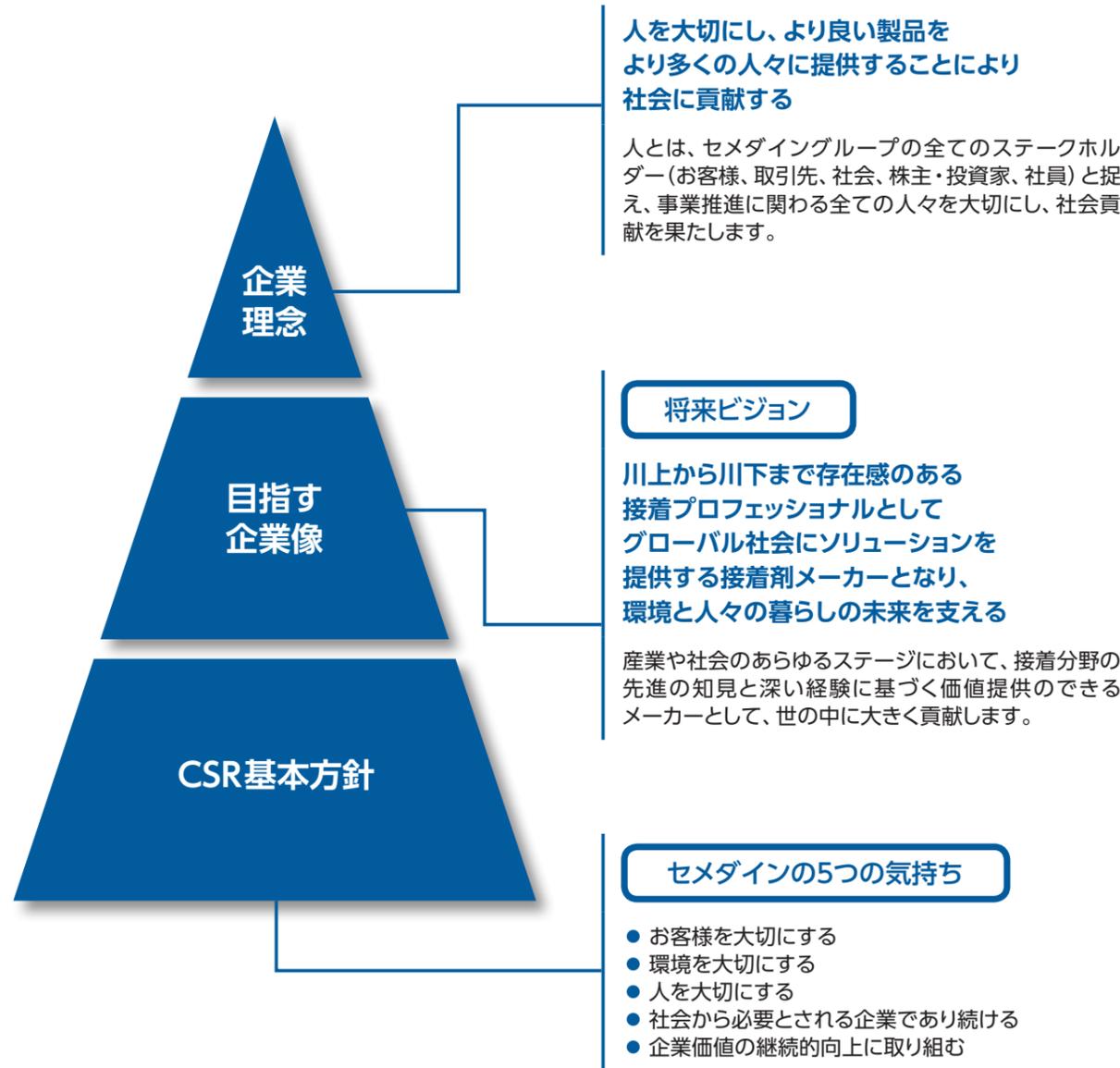
お客様の信頼を得るためにも、顧客情報を収集し正確に日本セメダインに伝達することを考えています。



営業  
劉 原家

# 持続可能な社会の実現に向けて

セメダイングループは、信頼される企業であり続けるために、企業理念をグループ全員が共有しています。また、セメダイングループの社員として社会的責任を果たすCSR基本方針を「セメダインの5つの気持ち」として掲げ、持続的な社会づくりへの貢献を目指しています。



## セメダインの5つの気持ち

<b>お客様を大切にする</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 安心・安全な商品の提供</li> <li>2 お客様ニーズへの対応</li> <li>3 付加価値のある製品の開発</li> </ol>
<b>環境を大切にする</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 法律より厳しい環境基準の運用</li> <li>2 環境対応型製品の開発</li> <li>3 省エネルギー</li> </ol>
<b>人を大切にする</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 グループ全体の人材育成</li> <li>2 ダイバーシティ化への対応</li> <li>3 サプライヤーとの協業</li> </ol>
<b>社会から必要とされる企業であり続ける</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域社会への貢献</li> <li>2 適時適切な情報開示</li> <li>3 社会にソリューションを提供する接着剤メーカーになる</li> </ol>
<b>企業価値の継続的向上に取り組む</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 コーポレート・ガバナンスの強化</li> <li>2 コンプライアンス、リスクマネジメント</li> <li>3 国内・国外グループ全体の安全・品質の維持向上</li> </ol>

## 主なステークホルダーとの関わり

私たちは、セメダイングループと関わるすべての人を大切にする理念を掲げています。様々なステークホルダーに対して私たちが出来ること、そして取り組まなければならないこと（企業としての使命）を明確にし、最適な形でコミュニケーションを図りながら、ステークホルダーと良好な関係を構築してまいります。

	主な果たすべき責任	コミュニケーション方法
<b>お客様</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 品質マネジメント</li> <li>● 環境に配慮した商品開発</li> <li>● 物流上での安全配慮</li> <li>● 商品情報・サービスの提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お客様相談窓口（接着技術相談センター）の設置</li> <li>● 営業担当・サービス担当によるお客様対応</li> <li>● WEBサイトによる情報発信</li> <li>● 展示会の開催</li> </ul>
<b>取引先</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安定調達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日々の業務を通じた対話</li> <li>● 調達パートナーの訪問確認・フィードバック</li> </ul>
<b>社会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域貢献活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域イベントの参加</li> </ul>
<b>株主・投資家</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 株主への利益還元</li> <li>● 株主・投資家との対話を通じた企業価値の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 株主総会</li> <li>● ニュースリリース・公告などによる適時の情報開示</li> <li>● WEBサイトなどによる情報発信</li> </ul>
<b>社員</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 労働安全衛生</li> <li>● 人材育成</li> <li>● 雇用の多様性</li> <li>● ワークライフバランスへの配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 労使協議会、または代表との協議</li> <li>● コンプライアンス・リスク管理委員会</li> <li>● 社会環境報告書アンケート</li> </ul>

## セメダイングループのCSR活動報告

### お客様を大切にする

- 安心・安全な商品の提供
- P21

### 環境を大切にする

- 法律より厳しい環境基準の運用
  - 環境への取り組み
  - 事業活動と環境負荷
  - 環境マネジメントの定量的評価
  - エネルギー使用量・廃棄物の管理
  - 環境会計
- P22

### 人を大切にする

- グループ全体の人材育成
  - ダイバーシティへの取り組み
- P32

### 社会から必要とされる企業であり続ける

- 地域社会への貢献
  - 適時適切な情報開示
- P33

### 企業価値の継続的向上に取り組む

- コーポレート・ガバナンスの強化
  - コンプライアンス、リスクマネジメント
  - グループ全体の品質・安全への取り組み
- P35

# お客様を大切に

法令遵守を第一に掲げ、お客様・取引先との関係を、公正かつ健全なものとしていきます。  
そして、品質に優れ、安全・安心で環境に優しく、社会に有益な製品とサービスを提供することで、社会に貢献し、企業価値を高めていきます。

## 安心・安全な商品の提供

### 安定調達推進

当社では、生産材の適切な品質の確保や継続的な取引先としての与信状況の把握、そして安全調達を推進するため、取引先と、取引基本契約の締結、材料の仕様書取り交わし、公平・公正な購買取引を通じて、協力と信頼関係の構築に努めています。

#### 調達基本方針

- ① 取引先と相互の企業価値の向上を目指した調達活動を推進します。
- ② 地球環境への負荷低減を目指し、グリーン調達に取り組みます。
- ③ 公平かつ公正な取引機会を提供し、品質、価格、供給安定性、技術開発力、環境保全、安全確保への取り組み等を総合的に考慮した合理性のある取引を行います。
- ④ 国内外の関連法規制を遵守した取引を行います。

#### 遵法・購買倫理

- 国内外の法令、ルールを遵守し、「セメダイングループ行動規範」、社内諸基準に則り良識ある行動に努めます。
- 取引先との契約を誠実に履行します。
- 取引先とのコミュニケーションに配慮して、知り得た情報はその重要性をよく理解し、秘密保持に努めます。
- 取引先とは、公正・公平・透明・合理的な業務手順を念頭におきながら共存共栄を目指す関係を築いていきます。

#### 購買取引の原則

- 経済的な合理性に基づき、適正価格での取引を行います。
- 取引先選定にあたっては、品質・価格・供給安定性・技術開発力・環境保全・安全確保・納期等から合理性のある選択を行います。不採用の場合、要望によりその理由を説明します。
- 購買取引は原則として複数見積比較に拠り行います。
- 取引先と行うコストダウンの取り組みでは、ルールを定めて積極的に推進します。

#### 購買取引に於けるCSRの実践

- 原材料等の購買取引は、購入品の品質・安全性確保のため、法令、セメダイングリーン調達ガイドライン及び諸基準を適用します。
- 購入品が、その生産・流通に於いて、地球環境の保全に配慮されており、人権侵害に関わるものでないことを確認します。

#### 取引先への要請

- 「調達基本方針」の趣旨を理解し、相互の企業価値の向上を目指して、サプライチェーンを構成するビジネスパートナーとしての協力を要請します。
- 経済合理性に裏付けられた合理化等の各種提案の促進を要請します。
- 取引先に対し、コンプライアンス・人権・労働安全・環境・品質・安全等への取り組み状況の明示を求め、協働してCSRを実践していくことを要請します。

# 環境を大切に

化学物質を取り扱う企業として、化学物質に対する認識を深め、適切な管理を行うとともに、製品を提供する企業責任として、製品の性状、安全性、取り扱い方法を明確にし、それらを利用する全ての人の安全と健康、および環境を守るために、様々な活動を展開しています。

## 法律より厳しい環境基準の運用

### 環境管理体制

#### 環境管理体制

お客様に、安心して当社製品を使用していただくための品質保証体制は、品質保証本部の下に、品質保証を担う品質保証部、工場で生産される製品の品質を管理する品質管理部があります。

これに加え、2015年の4月から環境管理体制の強化の目的で、新たな品質部門として「環境安全衛生部」が設立されました。

環境安全衛生部には二つの業務があります。一つめは製品や材料の化学物質調査、製品取り扱い時に必要なSDSの作成、輸出時の各国化学物質規制への対応など化学物質管理業務です。二つめは当社グループに勤務する社員の労働安全衛生や職場で扱う設備や化学物質のリスクアセスメントなど安全衛生管理業務です。

#### 海外の製品リスク管理・規制への対応

環境に関わるリスクは多岐にわたり、法規制は世界各国において年々強化されています。

このような状況を踏まえ、当社では、環境管理グループが中心となって、新しい環境法規制に関する情報収集やリスクなどの分析を行い、法令遵守を徹底しています。

具体的には、様々なセミナー、工業会、コンサルタント等を通じて、海外の化学物質に関する最新情報を収集し、法規制の改正等に速やかに対応する体制を整えています。

近年、EU化学物質規制REACH<sup>\*</sup>の制定をはじめ、韓国・中国・台湾などで、化学物質のリスク管理強化を目的とする法規制が進み、東南アジア諸国でも、GHS<sup>\*</sup>が導入されるなど、各国でSDS<sup>\*</sup>などの整備が進められています。

製品を輸出する際は必ず、米国・韓国・中国・台湾・フィリピンなど、既存化学物質リストへの記載有無の確認を徹底するとともに、製品設計の上でも、確認精査するよう取り組んでいます。

既存化学物質リストへ記載されていない物質を各国へ輸出する際には、法的手続きを実施している他、海外で製造もしくは輸入している製品中の化学物質について、対象国での化学品管理制度に基づき、その数量や危険有害性に応じた登録を進めています。

<sup>\*</sup> REACH(Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals): 欧州連合における化学物質の登録・評価・認可および制限に関する規制。  
<sup>\*</sup> GHS(Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals): 化学品の分類および表示に関する世界調和システム。  
<sup>\*</sup> SDS(Safety Data Sheet): 化学製品を安全かつ適切に取り扱うために、製品に含まれる物質名、危険有害性情報、取り扱い上の注意などに関する情報を記載した書類のこと。旧称: 製品安全データシート(MSDS)が2012年3月制定のJIS Z 7253で安全データシート(SDS)に名称変更された。

#### 海外法規制に対して

SAICM<sup>\*</sup>達成目標である2020年に向けて、世界各国で化学品に関する新たな法規制が制定・改正されています(中国、韓国、台湾、タイ、米国、トルコなど)。特に、欧州REACHに端を

発するすべての既存化学物質を対象とした登録義務化が、韓国、台湾でも導入されようとしています。セメダインはこのような各国の法規制に対応し、各部署や海外協力会社と連携し、現地にて法規制最新動向情報の収集を行い、より正確で確実な法令対応を取る体制を整備しています。2017年度は、2018年から運用が本格化される韓国版REACH(K-REACH<sup>\*</sup>)での登録、台湾TCSCA<sup>\*</sup>での登録、米国TSCA<sup>\*</sup>でのインベントリーリセット対応、および欧州REACHの対応に注力しています。

<sup>\*</sup> SAICM(Strategic Approach to International Chemicals Management): 2002年の国連環境計画管理理事会において決議された国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ。  
<sup>\*</sup> K-REACH(韓国版REACH): 化学物質の登録および評価等に関する法律。  
<sup>\*</sup> TCSCA(Toxic Chemical Substance Control Act): 毒性化学物質管理法。  
<sup>\*</sup> TSCA(Toxic Substance Control Act): 有害物質管理法。

#### 輸出化学品への対応 欧州(REACHへの対応)

2007年6月より施行されているREACHでは既存化学物質、新規化学物質の区別なく、年間1トン以上欧州域内で製造・輸入する化学品は一部例外を除き、安全性試験等のデータをつけて登録することが義務づけられています。欧州における製品の製造・輸入に支障が生じないように登録が必要な物質の有無を定期的に確認しています。

#### 米国

米国の新規化学物質の届出制度

は、環境保護庁(EPA)所管の「有害物質規制法(TSCA)」および関連する連邦規則により定められています。既存化学物質リストに記載されていない物質を米国へ輸出する場合には、法的手続きを実施しています。

#### 韓国

韓国の新規化学物質の届出制度は、環境部所管の「化学物質登録及び評価に関する法律(化評法)」および雇用労働部所管の「産業安全保健法」に定められています。既存化学物質リストに記載されていない物質を韓国へ輸出する場合には、「化評法」に基づき法的手続きを実施しています。

#### 中国

中国の新規化学物質の届出制度は、国家環境保護局の「新規化学物質環境管理弁法」に定められています。既存化学物質リストに記載されていない物質を中国へ輸出する場合には、法的手続きを実施しています。

#### 台湾

台湾へ製品を輸出する場合には、「毒性化学物質管理法」および「危険物及有害物通識規則」に従って対応しています。台湾では2014年に新規化学物質の登録制度が導入されました。セメダインではこの新規化学物質登録制度に基づき法的手続きを実施しています。

## 化学物質の情報管理の強化に向けた活動

### 化学物質の管理について

セメダインおよびグループ各関係会社は、製品の開発から廃棄までの全ての過程において、環境関連物質による環境への負荷を低減するために、製品及び製造時に使用する化学物質の管理を実施しています。

#### 1. 使用物質の把握・管理

使用する物質については、製品により、下記の基準に基づき、使用物質の禁止、管理を進めています。

- 法規制
  - ↳ 化審法、労安法、食品衛生法、PRTR法、EU・RoHS指令、REACH等
- 用途
  - ↳ お客様の要求(お客様の化学物質管理規程等)
  - ↳ 当社の化学物質管理方針

#### 2. 開発における原材料の選定

製品の開発に当たり、原材料を選定する場合は、上記の基準を踏まえ、不純物を含め、原材料の選定を行なっています。

#### 3. 購入原材料の管理

原材料に起因する、意図しない化

学物質の混入を防ぐため、「セメダイングリーン調達基準」を制定し、管理しています。

- 原材料メーカーに対し、環境関連物質の管理を含む環境管理システムの構築を依頼
- 購入する原材料のSDSによる情報収集、および、1項の基準により制限を受ける物質の分析データ及び、「化学物質含有情報シート」の要求
- 不適合発生時の是正処置要求および効果の確認

#### 4. 製造における異物混入、不純物管理

- 製品の化学物質管理の要求レベルが製造現場で把握できる体制の確立
- 管理レベルの異なる製品の設備的分離又は、異物混入防止対策の徹底
- 異物、不純物混入防止作業の徹底とその教育の実施

#### 5. RoHS10物質の検査

- カドミウム、六価クロム、水銀、PBB、PBDE、DIBPについては既に全廃し、規制値を超える可能性はありません。
- 鉛、BBP、DBP、DEHPについても限定された使用で使用場所も限定・

### 紛争鉱物への対応について

コンゴ民主共和国とその周辺諸国で採掘される鉱物(タンタル、タングステン、錫、金)の一部が、人権侵害や環境破壊等を引き起こす武装勢力の資金源となっているとの懸念から、2010年、米国にて金融規制改革法(ドッド・フランク法)が制定され、米国上場企業に対し、それら鉱物の使用状況に関する報告義務が課されました。

当社では、紛争鉱物対応に真摯に取り組む、顧客への情報開示を行うことが、グローバル企業として社会的責任を果たすことであると考えています。

管理されています。これらを含む原材料を使用する製品もありますが、設備的分離または混入防止対策の徹底により、規制値を超えることなく管理しています。その上で以下のように検査の頻度を定めています。

- ↳ 非鉛、非DEHP専用ライン製造製品は、定められた頻度で分析、安定した生産状態であることを確認
- ↳ DEHP、BBP、DBP使用ラインではRoHS2対象製品は生産しない
- ↳ 鉛化合物使用ライン製造製品は、全ての該当製品を分析、検査する
- 他の化学物質については、分析技術が未確立等の問題がありますが、当社に原材料を供給していただいている原材料メーカーと綿密な連携のもと、お客様のご要求にお応えできる管理状況となっております。

#### 6. SDSおよび製品ラベルのGHS対応

セメダイングループでは、世界各国で導入されている各国のGHSに対応したSDSの発行、製品ラベルの貼付を推進しています。

GHSは、(1)化学品を危険有害性に応じて分類し、(2)製品の包装容器にラベルで表示し、(3)SDSに内容を記

載し提供することを世界的に統一する仕組みです。

国内では労働安全衛生法で対象物質含有製品のラベルとSDSについてGHS化が義務づけられており、セメダインでは対象物質を含有するすべての製品について危険有害性を分類し、ラベル表示の対応を完了しました。SDSについては、すべての国内製品についてGHS化を完了しました。海外向けについてもEU、韓国、台湾、中国などGHSの法制化がなされた国への対応を完了しています。

#### 7. 含有化学物質情報の入手と提供

##### 7-1. グリーン調達ガイドラインの実施

セメダインでは、環境に配慮した安心できる製品を提供するため、「グリーン調達ガイドライン」を定め、製品の環境負荷物質管理や、原材料・

### 製品のリスク管理

当社は、安全で高品質な製品をお客様にお届けするために、法令、規制の遵守はもとより、予防的アプローチの観点からも、製品の品質や安全性に関する様々な取り組みを行っています。

#### 新製品の適切な評価

当社では、研究開発のテーマ探索から、市場分析、試作、製品化に至る4つの段階で、詳細なDR(デザインレビュー)を行っています。

有害化学物質などの使用有無の確認、顧客の要求事項への適合性、および法令対応などについては、この初期段階(DR1)から精査し、製品の安全性を第一とした開発に、取り組んでいます。



包装材料の取引先の品質・環境管理の調査を行っています。具体的には、SDSや、JAMP\* MSDSplus\*(AIS)、環境管理に対する調査表の提出を求めています。さらには、製品を開発する際の重要配慮事項として、化学物質に関する国内外の法規制を調査し、RoHS指令や高懸念物質(SVHC)をはじめとする、使用禁止化学物質が含有していないことを確認しています。また、新製品のみならず、既存製品におきましても、随時、見直しを進めています。

##### 7-2. MSDSplusの作成

製品中の含有化学物質情報の提供について、共通書式の「MSDSplus4」による情報提供や情報入手を積極的に進めています。

2016年も、1月(物質リストVer.

### 安全情報の提供

当社では、SDS、ラベル、イエローカードなどを通じて、製品の安全情報を提供しています。

#### 安全データシート(SDS)の活用

SDSは、化学品の取り扱い方法や安全性に関わる情報を詳しく伝える文書であり、当社製品の安全に関する情報を提供する上で、非常に重要となっています。

そのため、顧客、販売代理店、輸送会社など、当社製品を取扱う会社へ提出しています。



#### 改正労働安全衛生法への対応

2014年の労働安全衛生法の一部を改正する法律公布に伴い、SDSの提供が義務付けられている化学物質について、2016年6月1日からラベ

ル表示の義務が課せられるとともに、事業者によるリスクアセスメントの実施が義務付けられました。この改正により、ラベル表示の対象物質が大幅に増加しましたが、セメダインではこの改正法令への対応を完了しました。

一方、製品含有化学物質情報の伝達に関して、新情報伝達スキーム(chemSHERPA\*)のデータ作成支援ツールがリリースされ運用が始まり、セメダイングループも引き続き本格運用に向けて、関連部門と協力し、積極的に取り組んでいきます。

\* JAMP:アーティクルマネジメント協議会。Joint Article Management Promotion-consortium。  
\* MSDSplus:特定の化学物質の情報伝達シート。  
\* chemSHERPA:製品に含有される化学物質を適正に管理し、拡大する法規制に継続的に対応するためのサプライチェーン全体で利用可能な新しい情報伝達共通スキーム。

ル表示の義務が課せられるとともに、事業者によるリスクアセスメントの実施が義務付けられました。この改正により、ラベル表示の対象物質が大幅に増加しましたが、セメダインではこの改正法令への対応を完了しました。

#### ラベルの表示

製品の容器に貼付するラベルには、GHSに対応した取扱い時の注意点や安全性情報を、取扱い者に向け簡潔に表示しています。

現在は、新JIS(JIS Z 7253)に基づくSDSの改定に合わせて、表示の見直しを進めています。

#### イエローカードの徹底

イエローカードとは、製品の輸送中の事故に備え、製品の適用法令、性状、応急処置や消防、警察、当社への通報連絡先などを、簡潔に記載した黄色地のカードです。

化学品を輸送する会社へ配付し、輸送時の携帯を徹底しています。

## 化学物質管理委員会の実施

工場・購買・開発・営業・品質など各部門が集まり、定期的(1回/月)に“化学物質管理委員会”を開催しています。

本委員会では、国内の法規制やお客様・業界個別のグリーン調達、近年増加している輸出に対応するための各国・地域の規則など、各部門に伝達することにより、必要情報の周知・共有化を図り、迅速な対応ができるよう、各部門の役割分担を明確化しています。また、新規登録した原材料についても、各種法規制や取り扱い情報などの報告を行っています。

化学物質の取り扱いや製品の安全性など、リスク管理を先取りできるように、本委員会にて審議し、全社へ情報を発信しています。

## 分析の実施と技術の向上

主要製品については、定期的に外部委託にて、RoHS指令\*対象物質やハロゲン物質などの有害成分の分析を行っています。

社内分析については、開発・工場・生産技術・品質管理など様々な部門にて、F☆☆☆☆(JIS・JAIA・JSIA)のホルムアルデヒド分析や4VOC基準適合製品のVOC(トルエン・キシレン・スチレン・エチルベンゼン)分析など、多種多様に広がる分析の中から、それぞれ必要な分析を選定し、各分析の精度の向上を高めるとともに、信頼される測定対応に努めております。

\*欧州連合(EU)による、電子・電気機器における、特定有害物質の使用制限についての指令。



## 製品における環境配慮

化学物質に関連する法規制、お客様の環境調達(グリーン調達)方針や、その他の要請を考慮した自主的な使用化学物質の制限等を包含したものとして、グリーン調達のガイドラインを策定し、製品開発の際の重要配慮事項とするとともに、既存製品の見直しも順次進めております。

## 建築用途製品での環境対応

当社における建築用接着剤、シーリング材の対応概要は、下記の通りとなります。

法規制等	対象物質	基準	製品への表示
毒劇物取締法	法、指定令の劇物 メタノール、トルエン、キシレン、ホルムアルデヒド等	意図的な使用の禁止 (社内基準)	CCSマーク (自主表示)
労働安全衛生法	製造禁止物質 石綿(アスベスト)		
厚労省指針	室内空気濃度 指針値設定物質 ホルムアルデヒド等 14物質	日本接着剤工業会基準	4VOC基準適合 (JAIA)
	トルエン、キシレン、スチレン、エチルベンゼン		
建築基準法	放散量(速度) 規制物質 ホルムアルデヒド	JIS規格 (建築用・木材用接着剤)	F☆☆☆☆(JIS)
		日本接着剤工業会基準	F☆☆☆☆(JAIA)
		日本シーリング材工業会基準	F☆☆☆☆(JSIA)

# 環境への取り組み

## 環境方針

2003年に、全社の環境活動の基本となる環境方針を制定しています。

### 基本方針

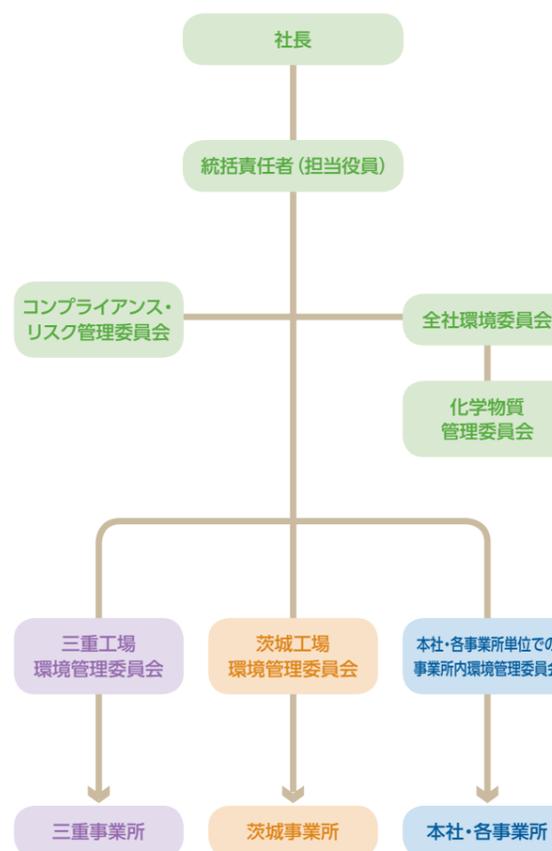
セメダイン株式会社は、全社員が環境の重要性と資源の有限性を認識し、その保全・保護・改善に不断の努力を行うとともに、環境を視野に入れた企業発展を目指し、社会的責務と事業活動を両立した環境保全企業を指向する。

### 行動指針

セメダイン株式会社は、「接着剤・シーリング材ならびにこれらの関連製品の開発・生産・販売」の事業活動において、その活動を地球環境の保護に調和させ、かつ持続的発展の可能な環境保全型企業実現のため、全社員が遵守すべき指針を以下に示す。

- 1 製品の開発から廃棄に至るすべての事業活動において、環境・安全・健康への影響に配慮することを経営の重点課題とし、全社挙げてこれに取り組む。
- 2 環境保護に対する社内体制の整備、環境負荷低減目標の設定、環境保護活動の推進に積極的に取り組むとともに、これらの活動を通じて環境へのさらなる意識向上を図る。
- 3 製品の全サイクルを通じ、環境保護のための省エネルギー・省資源・リサイクル・廃棄物削減などの環境負荷低減に積極的に取り組み、その継続的改善に努める。
- 4 国・地方自治体・業界などが定める環境関連規制をよく理解するとともに、必要に応じて自主基準を設定し、これらの規制・基準を遵守する。
- 5 製品の輸出や海外での事業活動に際しては、現地の環境保護・法令等に配慮し、必要な対策の実施に努める。

## 推進体制



## 環境マネジメントプログラム

各事業所の環境管理活動の指針となる全社環境マネジメントプログラムを策定し、各事業所の活動の基準としています。

### 全社環境マネジメントプログラム

- 1 資源・エネルギーの使用量把握と削減
  - 電力・重油の使用量を削減する。
- 2 廃棄物排出量の把握と削減
  - 廃棄物を削減する。
- 環境保全
  - 大気汚染の原因となるVOC(揮発性有機化合物)排出量を削減する。
  - 環境法令を遵守する。
  - 建物・設備の導入・更新時に環境に配慮する。
  - グリーン購入を推進する。
- 4 化学物質使用量の把握と削減
  - 有害化学物質の使用量を削減する。
  - 使用する化学物質の環境影響評価を行う。
  - 包装材料使用量を把握する。
- 5 環境配慮製品の開発
  - 環境配慮製品の開発、販売を推進する。
- 6 環境情報の公開と外部コミュニケーション
  - 環境活動内容を公開する。
  - 企業活動を通じて地域・社会へ貢献する。

# 事業活動と環境負荷

## 化学物質のインプットとアウトプット

### INPUT

#### 原材料

ゴム類	173t	有機薬品類	1,653t
樹脂類	8,477t	無機材料	12,362t
油脂・溶剤類	2,192t	その他	647t

#### 電力

483万kwh

#### 燃料

1,133kl

#### 水

8.3万m<sup>3</sup>

#### 原材料



製品の生産量において多くの割合を占める建築用シーリング材や内外装用接着剤の生産量が増加したことに伴い、原材料の購入量が増加しました。全体的には新設住宅着工戸数が増加したことから、建築用シーリング材や内外装用接着剤の生産量が増加しました。

#### 電力



茨城工場に設置しているコージェネレーションシステムの発電機の定修を2015年に実施しましたので一旦増加しましたが、定修が終了したため、前年より減少しました。コージェネレーションシステムより得られた電力を消費したため、電力の購入量は減少しました。製品の設計開発を行っている開発部が数多くの電力消費設備を稼動しているため電力消費の多い事業所となっていますが、深夜電力の使用により電気の需要の平準化の取り組みを継続して実施していきます。

#### 燃料



茨城工場に設置しているコージェネレーションシステムの発電機の定修を2015年に実施しました。また、同年にはエマルジョン系製品の工程の一部を外注化したことによって生産方式を変更したために燃料の使用量が大きく減少しました。2016年はコージェネレーションシステムの発電機が通常の稼動水準に戻ったため、購入量が増加しました。

#### 水



水の使用量については昨年度はエマルジョン系製品の生産方式の変更により減少しましたが、開発部における使用量の増加により全体の使用量が増加しました。

### OUTPUT

#### 製品

25,323t

#### CO<sub>2</sub>

5,847t

#### 廃棄物

1,243t

#### VOC (揮発性有機化合物)

11.5t

CO<sub>2</sub>排出量：電力燃料使用量より算出した数値。  
VOC排出量：日本接着剤工業会の重点削減物質使用量に一定の係数を掛けた値。  
[n-ヘキサン、シクロヘキサン、トルエン、キシレン、メタノール、酢酸エチル、アセトン、メチルエチルケトン、ゴム揮発油]  
対象：茨城工場・三重工場 セメダインケミカル株式会社 岡山工場

#### 製品



ゴム系や樹脂系の溶剤形接着剤やシーリング材の割合が減少し、無溶剤形の接着剤やシーリング材の割合が増加する傾向が継続しています。全体的には新設住宅着工戸数が増加したことから、建築用シーリング材や内外装工事用接着剤の生産量が増加しました。

#### CO<sub>2</sub>



電力消費量はほぼ横ばいでしたが燃料の使用量が増加したことに伴ってCO<sub>2</sub>排出量が増加しました。

#### VOC (揮発性有機化合物)



近年はゴム系や樹脂系の溶剤形接着剤やシーリング材の割合が減少し、無溶剤形の接着剤やシーリング材の割合が増加する傾向が継続しています。

#### 廃棄物



主として工場から排出される産業廃棄物の排出量は、製品生産工程の収率に大きく影響を受けます。一方でユーザー要求から製品の少量多品種化が進んで、収率は低下傾向となっています。従って、製品生産量に対する産業廃棄物排出量が増加しています。また、産業廃棄物は廃棄物全体のほとんどの割合を占めているため、結果として前年比の排出量で4.7%の増加、生産量に対する原単位比でも9.0%の増加となっています。

# 環境マネジメントの定量的評価

## 全社環境マネジメントプログラムの結果

- 改善
- △ 改善されているが不十分
- × 改善できず
- 評価なし

	2014	2015	2016	目標	実績	自己評価
CO <sub>2</sub> 排出量(トン)	5,823	5,478	5,651	—	上段は、電力、A重油、ガソリンのエネルギーから算出、下段は温対法による報告書です。エネルギー起源のCO <sub>2</sub> 排出量は173トン(3.2%)増加しました。温対法により行政に報告するCO <sub>2</sub> 排出量も73トン(1.3%)の増加となりました。尚、省エネ法によるエネルギー使用量の行政への報告値は、前年度の2,377KLから2,427KL(原油換算値)に増加しました。	×
	5,760	5,474	5,547			
電力使用量(万kwh)	497	526	545	工場部門：生産量原単位比で1%削減 事務所部門：1%削減	開発部門における電力使用量により、電力使用量は前年度よりも増加しました。一方、工場部門の生産量あたりの原単位は3.2%の減少、事務所部門では18.5%の増加となり、目標を達成することが出来ませんでした。	△
A重油購入量(KL)	1,165	1,005	1,045	生産量原単位 1%削減	購入量は前年度から4.0%増加しました。生産量当たりの原単位で3.6%の増加となり、目標である1%削減を達成できませんでした。	×
VOC排出量(トン)	11.8	11.0	11.5	—	日本接着剤工業会の重点削減対象9種類の使用量(購入量)に、大気への排出値として1.05%(工業会の設定した基準値)を乗じた値です。近年、溶剤形接着剤の生産量の減少に伴い、VOC排出量も減少傾向で推移しています。	○
ガソリン購入量(KL)	35	33	34	—	数年間、ほぼ一定の状態が続いています。	—
PPC用紙購入量(万枚)	274	262	309	—	ファイリングシステムを導入し、ペーパーレス化を推進していきます。	△
水使用量(千m <sup>3</sup> )	85	66	83	—	—	—
一般廃棄物排出量(トン)	69	68	68	年間100トン以下	前年度並みで推移し、目標である年間100t以下を維持しています。	○
産業廃棄物排出量(トン)	830	1,006	1,125	年間生産量の5%以内	工場から排出される、製品の切り替え等で発生する産業廃棄物です。生産量に対する原単位は4.4%で、前年度の4.0%から増加しましたが目標である5%以内も達成しました。	○
有害廃棄物排出量(トン)	61	40	50	年間生産量の0.5%以内	工場から排出される特別管理産業廃棄物です。生産量に対する原単位は0.19%で、前年度の0.16%から増加していますが、目標である0.5%以内は維持しています。	○
環境配慮製品の開発(件)	59	51	17	—	色、規格等の重複を除いた、開発部で新規に設計、上市された製品の数です。	—
環境配慮製品の販売量(百万円)	8,379	9,602	10,203	総売上金額の30%以上を維持	当社基準のCCSマーク品、JIS、JAIAのF☆☆☆☆品、JAIAの4VOC基準適合品の販売金額です。売上高(20,875百万円)に対する比率は約49%であり、目標である30%以上を維持しています。	—
新規使用材料の環境調達基準適合確認(件)	17	16	36	—	グリーン調達を進める中で、新しく採用する原材料の自社調達基準への適合を確認した件数です。なお、実施率は100%です。	○
環境関連の教育・訓練回数(件)	43	13	57	—	主に工場部門での環境汚染防止等を含む訓練の回数です。	○
環境事故発生回数(件)	0	0	5	—	工場内での異常発生回数です。なお、法令に抵触するような事故の発生はありません。	×
第三者監査・第三者監査(件)	2	3	9	—	製品採用時の第三者監査が増加しました。	○

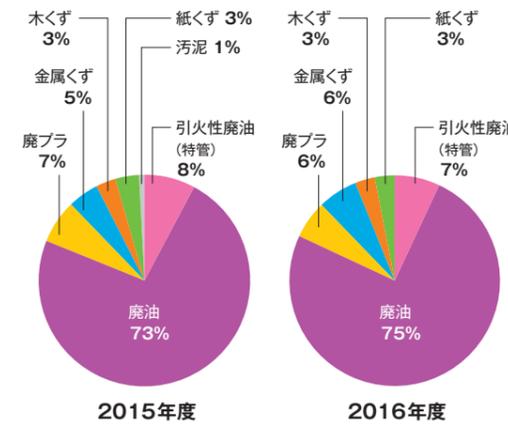
特記のない限り、対象事業者は、本社・大阪事業所・名古屋事業所・茨城事業所・三重事業所・開発センターです。

# エネルギー使用量・廃棄物の管理

## エネルギー使用量・廃棄物実績

2016年度の廃棄物排出量は生産量の変動の影響で増加しました。生産部門全体で生産の効率化に努めましたが、生産量1tあたりの廃棄物量は9.1%増加しました。今後も生産工程の改善を継続し、廃棄物の削減に取り組んでまいります。

### 2015、2016年度の廃棄物の量と内容(茨城、三重の両工場集計)



### エネルギー使用量実績

エネルギー種類	全社		茨城工場		三重工場		岡山工場	
	2015年度	2016年度	2015年度	2016年度	2015年度	2016年度	2015年度	2016年度
電力(千kwh)	4,858	4,827	1,624	1,374	1,918	2,059	1,316	1,394
A重油(KL)	1,090	1,133	963	1,002	41	42	86	89
水(m <sup>3</sup> )	69,612	69,682	59,503	57,081	6,357	7,065	3,752	5,536
LPG(m <sup>3</sup> )	1,780	1,798	1,676	1,608	104	190	0	0

### 廃棄物実績

(単位：トン)

物質名	全社		茨城工場		三重工場		岡山工場	
	2015年度	2016年度	2015年度	2016年度	2015年度	2016年度	2015年度	2016年度
引火性廃油(特管)	94.4	88.2	11.4	14.6	7.7	33.5	75.3	40.1
廃油	872.6	1,010.7	534.9	585.8	178.8	243.5	158.9	181.4
廃プラ	80.9	87.0	53.6	60.4	22.6	26.6	4.7	—
金属くず	56.0	80.3	27.6	28.8	28.4	32.1	—	19.4
木くず	38.1	37.7	22.2	25.0	15.9	12.7	—	—
紙くず	42.3	43.6	—	—	42.3	43.6	—	—
汚泥	7.5	2.7	7.5	2.7	—	—	—	—
廃石棉等(特管)	—	—	—	—	—	—	—	—
PCB等(特管)	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	1,191.8	1,350.2	657.2	717.3	295.7	392.0	238.9	240.9
再資源化量	178.7	201.8	157.1	176.8	21.6	24.9	—	0.1

## 環境負荷の低減

化学物質の取扱い及びエネルギー使用において、環境負荷の低減の実現を進めています。

### 化学物質の適正管理 PRTR対象物質実績(2016年度)

(単位：kg)

(No.)	物質名	全社			茨城工場			三重工場			岡山工場		
		排出量	移動量	計	排出量	移動量	計	排出量	移動量	計	排出量	移動量	計
1	亜鉛の水溶性化合物	0	14	14	0	14	14	0	0	0	0	0	0
134	酢酸ビニル	0	3	3	0	3	3	0	0	0	0	0	0
239	有機スズ化合物	0	468	468	0	130	130	0	103	103	0	235	235
265	テトラヒドロメチル無水フタル酸	0	15	15	0	15	15	0	0	0	0	0	0
298	トリレンジイソシアネート	0	10	10	0	0	0	0	0	0	0	10	10
300	トルエン	120	254	374	120	180	300	0	0	0	0	74	74
349	フェノール	0	300	300	0	300	300	0	0	0	0	0	0
391	ヘキサメチレンジイソシアネート	0	43	43	0	0	0	0	0	0	0	43	43
392	ノルマル-ヘキサン	0	227	227	0	180	180	0	0	0	0	47	47
405	ほう素化合物	0	214	214	0	130	130	0	61	61	0	23	23
411	ホルムアルデヒド	0	10	10	0	10	10	0	0	0	0	0	0
合計		120	1,558	1,678	120	962	1,082	0	164	164	0	432	432

PRTRとは：環境汚染の防止を目的に、各事業者が化学物質の管理に自主的に取り組むべき法律としてPRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律1999年7月公布)が制定されました。この法律の規制のひとつとして、指定された取り扱いの化学物質の環境への排出(大気や土壌への排出)や移動量(廃棄された物)を国へ届け出ることがあり、これにより事業者は自主的に削減に取り組むことが要請されています。

# 環境会計

## 環境保全コスト

(単位：千円)

分類	2015年度		2016年度		主な取り組み内容	
	投資額	費用額	投資額	費用額		
事業エリア内コスト	公害防止コスト	4,180	8,042	0	7,558	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 霞ヶ浦工業用水使用</li> <li>● コンプレッサー更新</li> <li>● コンプレッサー点検・修理</li> <li>● ボイラー点検・修理</li> <li>● 浄化槽清掃・点検、排水測定</li> </ul>
	地球環境保全コスト	9,931	2,033	9,315	3,709	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 集塵機フィルター交換</li> <li>● 空調機更新</li> <li>● 空調機修理・清掃・点検</li> <li>● 照明交換</li> </ul>
	資源循環コスト	0	33,723	0	37,964	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃棄物処理外部委託</li> </ul>
	小計	14,111	43,797	9,315	49,232	
上・下流コスト	0	2,859	0	6,635	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 容器包装リサイクル委託</li> <li>● 製品の再商品化(再加工)</li> <li>● グリーン購入</li> <li>● 環境配慮品用の製造設備設置</li> </ul>	
管理活動コスト	0	5,449	0	3,868	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境マネジメント</li> <li>● 環境測定費</li> <li>● 保安講習</li> <li>● シルバー人材活用</li> <li>● 草刈り</li> <li>● 塗装</li> </ul>	
研究開発コスト	0	6,980	0	8,754	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境配慮新製品の開発費(分析用機器・備品消耗品の購入)</li> </ul>	
社会活動コスト	0	4,090	0	7,748	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 赤十字広島義捐金</li> <li>● ベルマーク寄付金</li> <li>● レスリング協会協賛金</li> <li>● 大阪大学寄付金</li> <li>● ネパール地震緊急支援</li> <li>● 古河市花火大会協賛金</li> <li>● 年野球大会寄付金</li> </ul>	
合計	14,111	63,176	9,315	76,237		

集計範囲：茨城事業所、三重事業所、本社事業所、開発センター

## 環境保全効果

(単位：千円)

分類	主な内容	金額	
		2015年度	2016年度
省エネによる削減	節電、重油使用量の削減	△67	△35
廃棄物関連	有価物の売却	6,810	2,468
環境配慮品の市場展開	環境配慮品の製品利益	2,296,732	2,557,737
合計		2,303,476	2,560,170

集計範囲：茨城事業所、三重事業所、本社事業所、開発センター

# 人を大切にする

当社グループの社員一人ひとりが、能力を発揮でき、安全で安心して働くことができるように、制度・職場環境の整備を行うとともに、積極的に人材育成に取り組んでいます。

## グループ全体の人材育成

### 人材育成の取り組み

#### 適材適所の取り組み

当社では、人事異動などを通じて適材適所の取り組みを行っています。上司による所有能力の評価や仕事への

取り組み等を評価している他に、年に1回、自己申告書として、本人の自己評価や希望を上司と面談の上、人事総務部へ提出することとなっています。

それらをもとに本部長を中心として定期異動時に適材適所となるように配置を行っています。

## ダイバーシティへの取り組み

### 多様な人材が活躍できる職場づくり

#### 基本的考え方

当社においては、基本的に一般的な事務職・総合職の区別を撤廃し、同一の条件にて仕事ができるものとしています。

また、学歴・性別・新卒・中途採用等は、人事制度上の区別なしに能力や実績による評価を行っています。

短時間勤務の導入や育児休暇等

の子育て支援、傷病休暇等の休業者への対応、福祉共済会による各種給付や貸付制度を通じて、ワークライフバランスの推進に努めています。

#### 雇用、採用の状況

当社では、新卒採用としては2016年4月は9名を実施しました。その内訳は技術系5名、営業系1名、事務系

1名、技能系2名でした。男女比は男性8名、女性1名でした。また、中途採用としては、各分野におけるエキスパートを採用し、事業の底上げを図っています。中途採用は必要に応じて採用活動を行うケースと、予め計画して採用活動を行なうケースがあります。優秀な人材を求めて通年で中途採用を受け付けており、この制度を利用して採用に至ったケースもあります。

		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
従業員数(人)	男	225	232	234	242	250
	女	34	32	31	31	31
採用数(人)	男	5	7	6	6	8
	女	2	0	1	1	1
新卒新入社員5年間の定着率(%)		86.1	94.4	97.3	100.0	97.3
離職率(%)		1.1	0.7	1.4	1.1	2.2
平均年齢(歳)	男	41.3	40.7	41.4	41.8	41.6
	女	40.1	40.9	40.5	40.7	40.6
	計	41.1	40.7	41.3	41.7	41.5
平均勤続年数(年)	男	16.1	15.4	15.4	16.6	16.0
	女	18.1	18.6	17.9	19.2	18.4
	計	16.4	15.7	15.7	16.9	16.3

### ワークライフバランスの推進

当社においては、ワークライフバランスの推進を目指して、月間・年間等の残業時間・休日出勤の規制、年間完全週休2日制の実施、短時間勤務制度、フレックス勤務制度等の諸制度を整備しています。

全社員が参加している福祉共済会では、子女の入学時に給付を行うとともに教育やレジャー、大型消費財購入に対する貸付を行っています。



# 社会から必要とされる企業であり続ける

当社グループは、常に地域社会に根差した企業として、事業所が地域の方々とコミュニケーションを大切に、地域との積極的な交流に努めるとともに、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

## 地域社会への貢献

### 地域貢献活動

#### 次世代育成支援

次世代育成支援とは、次世代育成支援対策推進法の施行により、一般事業主行動計画を策定し、届出が義務付けられております。当社では、平成27年から29年3月末まで三つの目標を立てて推進してきました。「子育てを行う社員等の仕事と家

庭の両立を支援するために雇用環境の整備」に対して、目標「子育てをすすめる従業員の利便を図るため、半日休暇の取得可能数を増加させる」を挙げました。

また、「その他次世代育成支援対策」として、目標「出張授業や会社見学等の学校行事受入先の拡大」、「定

時退社推奨日を増やす」ことを挙げました。

子育て世代を対象に、フレックスタイム勤務制度を適用できる期間を小学校入学までから卒業までに延長しました。これにより家族と一緒に過ごす時間を増やし、より仕事と家庭の両立を支援する制度としました。

Pick up

#### しながわ職場歩き

当社では、地域貢献活動の一環として、職場見学やインターンシップなどを積極的に受け入れています。

2016年11月10日の未来協育推進機構主催のしながわ職場歩きにおいては、6人の生徒さんを受け入れて、働くということについて、若手社員を交えてディスカッションを実施しました。

将来についておぼつかない感覚しか持っていない生徒さんたちでしたが、ディスカッションが深まるにつれて考えを見つめなおすきっかけとなったようでした。



Pick up

#### 小山高等工業専門学校インターンシップ

2016年8月1日(月) 国立小山高等専門学校の学生を当社茨城工場(茨城県古河市)に招き、インターンシップを実施しました。技術系ということで工場でのインターンシップとなりましたが、生産現場を見学したり、工場で出来上がった製品の検査業務を実際に体験したりして、原材料から製品の製造・充填、製品検査までの一連の流れをつかんでもらいました。



#### 工場周辺の清掃活動

セメダインの各種製品を生産するマザー工場である茨城工場と環境対応形の接着剤やシーリング材を自動化ラインで製造する三重工場ではISO14001の外部コミュニケーションの取り組みとして各工場周辺の清掃活動を行っています。

Pick up

#### 茨城・三重工場周辺清掃活動

茨城工場では工場および隣接する開発部、商品センターを囲む周囲約1.5kmの道路の清掃活動を実施しています。2016年度は前回の3月31日に続いて10月31日に各職場から参加して、各自手袋と大きなゴミ袋を持って清掃活動を行いました。

三重工場では毎年3回、春、夏、秋に工場周辺の道路の清掃活動を実施しています。2016年度は4月5日、7月1日、10月4日と3回の清掃を行いました。

茨城工場



三重工場



## 適時適切な情報開示

### 情報開示に関する基本方針

#### 情報開示に関する基本方針

当社では、ホームページや事業報告書等を通して、株主・投資家の皆様に適時・適切な情報開示を行っております。投資判断に影響を与える決定事実や発生事実に関する情報、決算に関する情報、既に開示した重要な内容について訂正・中止等が行われた場合に情報開示を行います。

また、経営上の重要事項に限らず、トップインタビューや当社の歴史、製品に関するコラム等についても、投資家の需要に応えるべく、出来るだけ積極かつ公平に開示し、当社についてご理解いただけるよう努めております。

#### 適時開示体制の概要

当社における会社情報の適時開示に係る現行の社内体制は、管理本部長を情報取扱責任者に据え、法令および東京証券取引所の諸規則を遵守し、適時適切に開示を行うよう努めております。

投資判断に影響を与える決定事実

および発生事実については、情報取扱責任者を中心に開示が必要か否かを検討し、開示が必要な場合は迅速に行うよう努めております。

#### IR情報の開示

当社ではホームページを利用して、広くステークホルダーの皆様向けに、決算情報やニュースリリース等の開示を適時適切に実施しております。

また、半期に一度、株主の皆様へ事業報告書を送付し、トップメッセージや事業の概況についてお知らせしています。

#### IRスケジュール

- 5月 決算発表
- 6月 定時株主総会
- 8月 第1四半期決算発表
- 11月 第2四半期決算発表
- 2月 第3四半期決算発表

※公表すべき重要事実が発生した場合は、適時に情報開示を行います。

### 利益配分に関する基本方針

#### 利益配分に関する基本方針

当社は、株主の皆様に対する安定的な利益配当を、経営の最重要課題の一つとして認識しております。株主の皆様への利益還元を重視しつつ事業の成長および企業体質強化のための内部留保の充実を総合的に実現すべく、継続的な利益確保とバランスのとれた安定配当を行うことを基本方針としております。

### 株主総会

#### 株主総会

当社は、株主総会を株主の皆様と経営者との対話を行える貴重な場として、認識しております。そのため、株主の皆様が株主総会議事事項について検討を行う十分な時間を取るように、招集通知の早期発送やweb開示に取り組んでいます。

また、事業報告をよりわかりやすくする工夫として、報告事項のビジュアル化に取り組んでいます。

# 企業価値の継続的向上に取り組む

お客様、株主・投資家、取引先、社員、社会、環境など、  
企業をとりまく様々なステークホルダーとコミュニケーションを図りながら、  
社会の期待と信頼に応えられる体制を構築してまいります。

## コーポレートガバナンスの強化

### コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

東京証券取引所による「コーポレートガバナンス・コード」の策定、推進などにより、コンプライアンス体制を構築し、株主や投資家を守り、企業価値を高めて、持続的な発展を達成する体制を構築することは、今や上場企業に限らず、あらゆる企業の取り組むべき課題となっています。

当社グループでは、こうして構築されたガバナンスの上に、ニーズを先取りした製品の開発や継続して利益の出る企業体質を実現することに

より、お客様や原材料メーカーとの安定的なお取引、社員の雇用継続など、当社とかわりを持つあらゆる人々に利益を提供するとともに、製品の安全や地球環境の保全についても重視し、安心して長くお付き合いのできるような企業を目指しています。

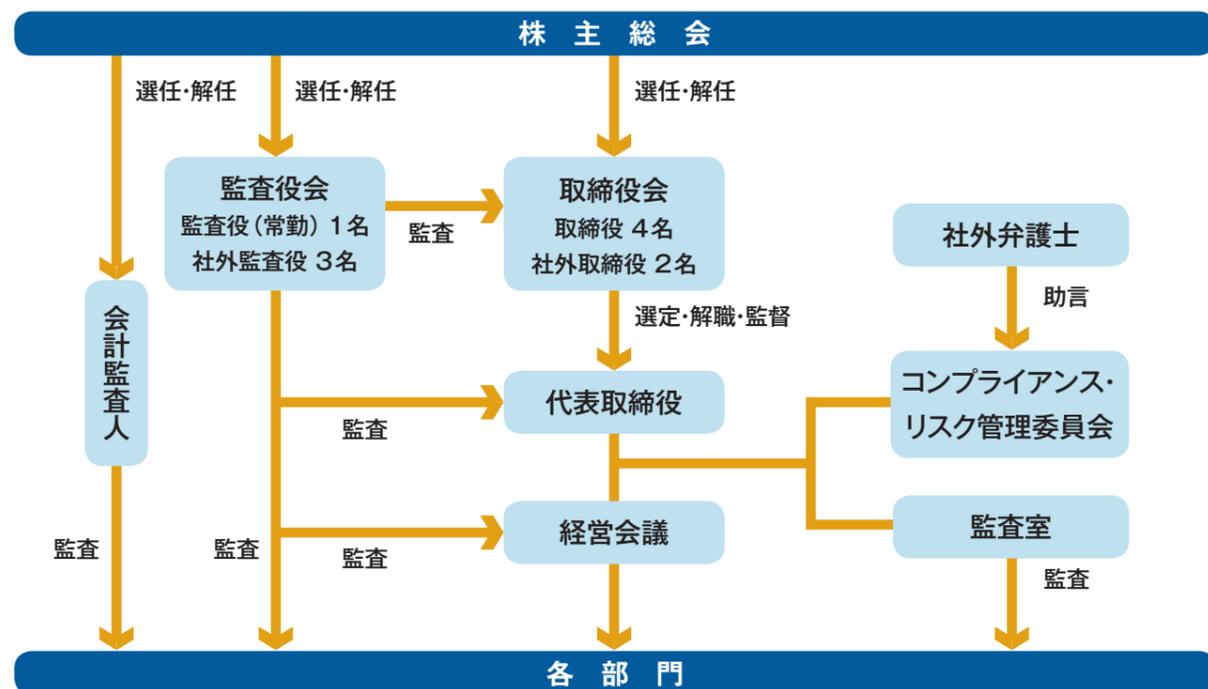
### CSRを支える体制

内部監査は、取締役会により構築されたガバナンスとリスク・コンプライアンス体制の下、内部監査人協会（IIA）の「内部監査の専門職の実施の国際基準」に準拠し、経営目標の効

果的な達成に役立つことを目的としております。

全部署を対象とし、内部監査規程およびリスク評価に基づいた監査実施計画を立案し、合法性と合理性の観点から、公正かつ独立の立場で、業務の遂行状況を評価しています。必要に応じ、被監査部署に改善や是正を提言するとともに、監査結果は、定期的に取締役会に報告されます。

コーポレートガバナンス体系図



## コンプライアンス、リスクマネジメント

### セメダイングループ行動規範

#### 基本理念

セメダイングループの役員及び社員は、業務遂行にあたり、法令・社内規程等を遵守するとともに、公正と秩序、誠実と信頼をモットーとし良識ある社会人として行動する。

#### 遵守事項

- 1 法令等を遵守し、業務上の都合を優先させるようなことはしません。
- 2 就業規則その他の社内規程等を守り、互いに人格を尊重し、就業環境の向上に努めます。
- 3 社会と社員の安全を最優先します。
- 4 業務遂行に当たり、リスク要因の情報収集と未然防止に努めます。
- 5 取引先には誠実かつ公正に接し、信頼される取引関係を築きます。
- 6 業務上知りえた情報や第三者の知的財産権等を適切に取り扱い、インサイダー情報、個人情報及び社内機密情報を漏洩しません。
- 7 反社会的勢力には毅然として対応し、一切の関係を遮断します。
- 8 行動規範に反する発言や行動に気づいた場合は、是正に努めるとともに、速やかに上司またはコンプライアンス・リスク管理委員会に報告します。

### コンプライアンスの推進体制について

コンプライアンス維持のための組織として、コンプライアンス・リスク管理委員会を設け、各部門長をコンプライアンスオフィサーに任命して自部門のコンプライアンス責任者としています。

コンプライアンスリスク防止のための基本規程として、セメダイングループコンプライアンスリスク管理規程を定め、グループすべての社員にコンプライアンスの徹底を図っています。特に、セメダイングループコンプライアンスリスク管理規程にて規定しているセメダイングループ行動規範は、小冊子として全社員に配布し、常に携帯を義務付けています。更に月に一度は部や課の朝礼・会議などの機会に基本理念と行動指針を読み上げて、周知と徹底を図っています。

### BCPについて

ビジネスコンティニティプラン(BCP)については、緊急事態の発生をリスクとしてとらえ、コンプライアンス・リスク管理委員会が主管となっ

て推進しています。

東日本大震災の教訓をもとに、本社での緊急事態発生時の体制整備、緊急事態における各部門の役割の明確化とその準備、各工場・物流拠点との連携と指示などを、明確にしたBCPマニュアルを整備しています。

また、本社以外の各拠点(大阪・名古屋事業所、茨城・三重工場)での緊急事態発生時の初動体制なども検討を行い、シミュレーションによる全体訓練を検討しています。

### 情報管理の取り組みについて

当社の情報管理については、基幹システムを社外サーバーセンターに設置し、外部から保護された環境において、すべての業務処理を、そこで集中実施しています。

また、USBメモリー等の情報媒体による情報の移動が禁止され、情報漏えいの防止を行っています。

各システムのセキュリティ管理については、情報統括室が一括で管理を行い、外部よりのウィルスの侵入や不正アクセスの防止に努めています。

個人情報についても、各部門にて

厳格に管理されており、その管理状況については、毎年監査室による内部監査により、監査が実施されています。

### リスクマネジメントの考え方

当社のリスクマネジメントとしては、社長を委員長とする内部統制委員会を設けて、会社の各機能(販売、購買、製造、決算等)について仕事の流れを明らかにし、業務記述書を作っています。

その業務に対してリスク(不正が起る要因)とコントロール(不正が起らないように行う統制行為)を調査し、特に重要なコントロールをキーコントロールと指定して公認会計士とともに内部統制委員会が監査を行い、その結果を社長名にて内部統制報告書として関東財務局へ報告しています。

またこの活動とは別に、コンプライアンス・リスク管理委員会にて、年に一度各部門が自らリスクの調査を行い、新たに発見されたリスクに対して対処を行い、コンプライアンス・リスク管理委員会に報告しています(コントロールセルフリスクマネジメント活動)。

# グループ全体の品質・安全への取り組み

## 当社グループの品質保証体制

当社グループは、製造拠点を国内に5か所、海外に4か所持ち、個人のお客様向けの製品から、建築現場や電子部品、車載向けまでの多種多様な製品を作り、国内のみならず海外でも、幅広い分野でご利用頂いております。お客様に、安全な製品を確かな品質でご提供できるよう、ISOによる品質管理システムを基に運用、継続しておりますが、今後も水準を高めつつ、当社を取り巻く環境に対応すべく、見直しも行っていきます。

### 当社の品質保証について

当社が製造販売している接着剤、シーリング材には基本生ものと同じ有効期限があります。適正な温度で輸送、保管しないと使用前に硬化

してしまうものや硬化が遅れてしまう場合があります。

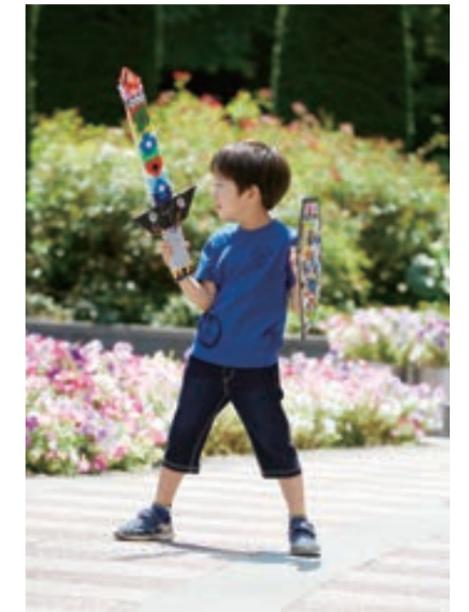
これまで国内で流通、ご使用いただいている場合には、あまり温度管理に起因する問題はあまり起こりませんでした。海外の様々な環境下での使用が増えるにつれ、流通・保管の温度による不具合の増加への対応として、当社では工業用接着剤の一部で冷蔵輸送・保管も含め、生鮮食品並みの取り扱いを行いました。

品質を保証すべく、より良い状態で製品をお届けするためにも、これからも品質にこだわり、変化していきます。

### 原材料メーカー、製造委託会社への監査について

より良い製品を安定的に製造する

ためには、品質の確かな原材料の使用は必須条件となります。また多品種の製品を製造供給すべく、他社へ製造、充填を委託している製品もあります。そのため定期、不定期で原材料の各メーカー、及び製造委託会社に対し品質監査を行っております。製造場所・工程の変更もその対象となり、品質が常に一定に保たれていることを一つひとつ確認して、もの作りを行っています。



表紙の写真は当社の製品を使って子供たちが作った作品となります。

## 国内の品質管理体制

セメダイン茨城工場、三重工場は、品質マネジメントシステムの国際基準とされるISO9001を取得し、長年にわたって維持を継続して、品質管理の基準としています。

製品の品質管理のもう一つの基準として、用途、種類ごとに定められているJIS規格がありますが、当社は、建築用、木材用接着剤、建築用シーリング材、一般工作用接着剤の計11規格を取得して、製品作りに活かしています。

当社の代表製品の一つである「セメダインC」も、一般工作用接着剤のJIS認証製品です。また、グループ会

社であるセメダインケミカル株式会社(岡山工場)も当社製品を製造するため、同等の品質管理体制を整備しています。ISO認証は取得していませんが、社内の管理基準は当社に準じています。また、建築用接着剤、建築用シーリング材の3規格のJIS認証を取得し、セメダインと同じJIS製品を製造できる体制としています。

### 第三者監査への対応

近年は、製造のプロセスが妥当であるかを重要視し、そのプロセスで製造された製品が、なおかつ品質規格を十分に満足していることを、要求

されるお客様が増えています。製品の製造工程の確認に工場を訪問されるお客様も増えていますが、その都度、直接の言葉でご指導を頂き、工程、設備の改善を進めることで、よりよいもの作りにつなげることができると考えています。

お客様から頂いたご指摘は、他のお客様の要求にも通じる場合が多いことから、水平展開や標準化を念頭において対応を進めています。直接工場をご覧頂いて、安心して頂けることが、「信頼されるもの作り企業」の条件であると認識して、今後も改善活動を継続してまいります。

## 労働安全衛生法の徹底

### 取り組み

全ての事業活動において安全操業を継続していくため、法令遵守はもちろん、必要に応じて自主基準を設定して安全衛生レベルの向上に努めてい

ます。各事業所においては、安全衛生活動を推進していくための組織体制を整備し活動を展開しています。さらに、事業活動におけるすべての面で

5S活動やリスクアセスメント活動などにより継続的な改善活動を行っています。

## セメダイン株式会社

- 本社事業所 〒141-8620 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー ☎(03)6421-7411
- 大阪事業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場1-16-10 大阪岡本ビル ☎(06)4964-5330
- 名古屋事業所 〒464-0026 名古屋市千種区井上町34 ☎(052)781-3166
- 札幌営業所 ☎(011)271-4929
- 仙台営業所 ☎(022)287-3611
- 福岡営業所 ☎(092)273-2070



<http://www.cemedine.co.jp/>

商品に関するお問い合わせ先:接着技術相談センター  
☎0120-58-4929(土曜日・休日を除く10:00~12:00、13:00~17:00)